



# さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は

**目次** P.1...どんな親に育てられたいですか / P.2・3...エリアズームアップ! — 各地区の活動紹介 — 第1回 P.4...チャレンジギネス!・30年度 終了した行事・30年度 今後の行事予定

No.16  
**子育て  
ワンポイント!**

## どんな親に育てられたいですか

もし、あなた自身が子どもだとしたら、「自分」という親に育てられたいですか。育てられたいとしたら、それは「自分」のどういうところが良いからですか。育てられたくないとしたら、それはどこがいけないと思うからですか。

子育ての目的は「子どもの自立と自律」です。そのために親は懸命に努力します。しかし、良かれと欲していることでも、時には自立や自律を妨げていることがあるかもしれませんね。

親と子ども、年齢差もあれば、生まれ育った環境も異なります。しかし、感情に大きな違いはありません。親が日常生活や人間関係で不快に感じることは、子どもも同じです。子どもが不快に感じる、ついしてしまいそうなことを4つ挙げてみたいと思います。心当たりはありませんか。

### 《他人と比較する》

〇〇さんはできるのに、どうしてできないの…

人間は比較の動物です。他人と比べて優越感情で満足感を待たり、劣等感情をバネに頑張ったりします。しかし努力の原動力となる良質な劣等感、他者から与えられるのではなく自分で感じるものです。

親には、子どもの個性、自分らしさを認めて欲しいですね。自己肯定感を育てることが大切です。

### 《脅迫する》

〇〇しないのなら△△するよ…

人間は強み・弱みの世界で生きています。弱みを握られたら強者の言いなりです。何度言っても言うことを聞かない相手には、つい自分の強みで責めようとしてしまいます。これがパワハラです。子どもに対しても気づかぬうちにパワハラをしている場合があります。子どもが言うことを聞かない時は、できない理由は何か、伝え方に工夫はできないか、相手に合わせて考えましょう。

### 《子どもと一心同体》

〇〇できないと私が恥ずかしい…

愛とは「相手を自分と同じように考える」ことがベースにありますから、愛を感じる人やものが誉められれば自分が誉められたように喜び、逆に失敗すれば自分のことのように恥ずかしいと感じます。親が愛する我が子を一心同体のように感じるのも当然です。しかし、親と子どもは似ていても、それぞれの個性や特性を持つ別の人間です。子どもを自分の分身にしようと思わず、違いを認め尊重しましょう。親が自分の長所も短所も認めて大切に思えば、子どもの長所も短所も認められます。まずはありのままを認め合い、愛しましょう。



### 《間違いを謝らない》

そんなことはしていない…

何事も失敗や間違いを起こさないように注意するのは当たり前ですが、大切なのは間違いを起こしてしまった時にどうするかです。大人の世界では、失敗や間違いを認めることで自分のイメージが悪くなる、立場が弱くなるなどの理由で、なかなか間違いを認められなかったり謝らなかったりすることが、残念ながらもあります。それは大人が大いに反省すべき態度です。子どもが自分の過ちや失敗を親に伝えてきた時は、その過ちや失敗に対しては繰り返さないように注意をする一方で、叱られることを覚悟して伝えてきた行動を大いに誉めましょう。また逆に、親が子どもに対して間違った態度を取っていたことに気付いた時は、しっかりと子どもの目を見て謝りましょう。「謝る」「許す」はお互いの人間関係の発展にとっても大切な行動です。

「親」という役割、「子ども」という役割を、また「妻」「夫」という役割や立場を、時には入れ替えて考えてみることで、客観性が生まれ、そこからいろいろな新しい気づきが生まれるかもしれません。より良い親子関係・人間関係を作っていきましょう。